

登録番号 13 — 037
 氏名 林 久 善

登録番号 19 — 001
 氏名 石井 大輔

大阪市地域公共人材活動報告書

1 派遣日時 2021年11月6日（土）13:30～15:00
 （第5回次）

2 派遣場所 グローバルユース防災サミット Zoom開催

3 参加人員 グローバルユース防災サミット実行委員5名/通訳等協力者5名
 /地域公共人材2名 計12名

4 活動内容

(1) テーマ

これまでの活動の振り返り

(2) 議事

ア イベントアンケート結果の発表

- ・参加者アンケート26名分 運営者13名分
- ・総じて、進行には低評価、内容には高評価

イ 人材による話し合いの視点のブリーフィング

Keep（良かった点）、problem（なぜ？）、try（今後への挑戦）の視点で展開することを共有した。

ウ メンバーのコメント

- ・若者が企画し、大人が寄り添うといったコンセプトはぶれなかった。
- ・事前学習などプロセスはよかったです。
- ・国内参加者との目的等の共有はできた。
- ・グミや動画といった非言語での共通に理解できることはよかったです。
- ・ドイツ語でのスピーチのために学びができた。
- ・情報共有の重要性を理解できた。
- ・実行委員メンバー間での意思疎通をもっと細かい点までしておけばよかったです。
- ・ドイツ参加者との共有には問題があった。
- ・ドイツとの間で調整に入った団体の対応に課題がある。
- ・ドイツの若者の参加が少ない。かつ消極的であった。
- ・交流のテーマはアイスブレイクや軽いテーマでもよかったです。
- ・今後年度末までは成果の共有と浸透として、映像や写真を活用して広げていく。

(協力者のコメント)

- ・通訳は当日だけでなく、事前にも協力依頼してくれればよかったです。
- ・通訳は、日から独、独から日にきちんと行うことが必要である。
- ・ドイツ側の参加者の温度差を感じた。対話によるコンセプトの共有が課題
- ・Zoomのテクニカルな問題は次回に向けて改善したい。
- ・土台の環境を整えることが重要で、小さなイベントを重ねて本番に入るといったプランもよいと思う。

エ コメントのとりまとめと共有

- ・国内の参加者向けには上手くできた。ドイツ側とはうまくいかなかった。
- ・お菓子や映像は非言語での共通の理解が進む。
- ・交流が大事との共通理解であった。充実するには、十分な時間をとり、話しやすいことからスタートし、双方向での対話につなげていくように企画すること。
- ・事前の対話やプレイベントを通じて相手と意思疎通を図っておくこと。

(3) <所感>

メンバー及び協力者の振り返りの機会を人材のブリーフィングにより円滑に進めることができた。

イベントは当日だけのことであるが、積み重ねてきたプロセスは、ユース層のメンバー、サポートした大人のメンバーの経験として蓄積されノウハウが備わったと考えられる。

このプロセスに人材として関わられたことは自分自身にも学びがあった。

反省点としては、人材として第三者として関わったのであるが、これまでの多くのイベント企画と運営の経験と防災に関する専門性を発揮するには、寄り添い型の主体的な役割での支援が重要であった。

イベント本番はハプニングが多すぎたので、この点の改善は、経験を重ねるか、事業者に任せることが妥当と思う。もっとリスク管理が重要であった。

<所感>

ユース（若者）を主役にしながら、おとなはどのようなサポートができるのか、また必要なのか考えさせられる派遣になりました。今後、グローバルユース防災サミットがドイツ・ハンブルグと交流を続け「深める」方向に向かうのか、それともドイツ以外にも交流する「広める」という方向に向かうのか興味深く思います。おとながサポートし、ユースが意思決定できるといいと思っています。